



Title	IDUN25号 一北欧研究一 刊行にあたって
Author(s)	
Citation	IDUN 一北欧研究一. 2025, 25
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/100745
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

IDUN25号－北欧研究－刊行にあたって

このたび、デンマーク語・スウェーデン語研究室で多大なご貢献を重ねてこられた田邊 欧先生への感謝の気持ちをこめて、そのご退職を記念する特別号IDUN25号を編纂いたしました。田邊先生は大阪外国語大学時代から現在の大谷大学外国語学部・人文学研究科外国学専攻に至るまで、長年の間、北欧文学教育と研究に携わられ、デンマーク語専攻を牽引してこられました。

本誌の執筆者は、研究室のスタッフに加えて、元同僚である名誉教授の先生方、非常勤講師として教育指導にお力添えいただいた諸先生方、田邊先生とゆかりのある日本とデンマークにおける北欧研究者や作家、北欧研究に携わる若き研究者や卒業生、総勢22名を数えます。お祝いの意をこめて執筆していただいた執筆者の皆様にこの場を借りて心より感謝の意を申し上げます。

田邊先生は、1992年4月に大阪外国語大学に赴任されて以来33年間、外国語学部デンマーク語専攻におけるデンマーク語教育と北欧文学教育・研究に携わってこられました。日本を代表する北欧文学研究者である田邊先生の研究領域は非常に多岐にわたり、いずれも学術的に重要な意義を有しています。

まず、北欧モダニズム研究では、文学と芸術の連関性に着目した研究を推進されました。特に、スウェーデン語系フィンランド詩人エーディット・スーデルグランの研究において、詩訳や詩論の解題を通じてその作品の受容史を明らかにした単著『待ちのぞむ魂』は、スーデルグラン研究の新たな視座を提供し、高く評価されています。

また、脱領域的なアンデルセン研究においては、アンデルセン文学の越境性やアニミズム的側面に焦点を当て、その豊かな芸術的創造性を浮き彫りにしました。単なるロマン主義の枠を超えたアンデルセン研究は、北欧文学研究に新しい視点を提供するものです。

さらに、カーアン・ブリクセン（イサク・ディーネセン）研究では、二重言語作家としての側面に注目し、ブリクセン文学研究の可能性を大きく広げました。その独創的な視点は、文学研究の枠を超えて多くの示唆を与えています。

加えて、社会包摂と異文化理解の視点から北欧文学を考察する研究では、文学が持つ社会包摂的な機能に着目し、異分野間の相互理解を深める取り組みを実践されました。その学際的研究にも今後期待が寄せられています。

このような田邊先生の研究の成果を基に展開された教育は、学生たちに深い感銘を与え、学術的探求を奨励するものでした。デンマーク語・文学を中心とする田邊先生の講義は、北欧文学全般にわたる知識を学生に提供し、後進の育成に寄与しました。田邊先生がデンマーク語専攻・スウェーデン語専攻そして大阪外国

語大学、大阪大学の発展に果たされた貢献は、計り知れないものがあります。

田邊先生は、他人への配慮と優しさに満ちた方で、学生や教職員、同僚を問わず、誰に対しても誠実で温かく接してくださいました。そのお人柄は、周囲の人々を癒やし、安心感を与える特別なものでした。田邊先生のご存在は、私たちにとってまさに太陽のようなものであったと言えるでしょう。常に穏やかで温かな光を放ちながら、私たちを照らしてくださった田邊先生は、その場にいるだけで、周囲の空気がほっとなごみ、笑顔が生まれる——そんなかけがえのない存在でした。

田邊先生がご退職されること、私たちにとって本当に寂しいことです。しかし、田邊先生の太陽のような温かい輝きは、これからも私たちの心を照らし続けることでしょう。田邊先生のご退職を惜しみつつも、これまでのご貢献に心より感謝を申し上げます。そして、今後の新たな生活がますます充実したものとなりますよう祈念しております。

前号が刊行されてからこの3年の間には悲しい出来事がありました。2022年8月10日に名誉教授である間瀬英夫先生が享年87才でご逝去されました。大阪外国语大学デンマーク語学科で1973年から30年以上にわたって教鞭を執られ、デンマーク語学の先駆者としてデンマーク語音声学・デンマーク語文法の研究とデンマーク語教育に邁進された間瀬先生がお亡くなりになったことに深い悲しみを感じ得ません。先生のご功績と温かなお人柄を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

また、2023年3月21日にスウェーデン語専攻の當野能之先生が享年49才でご逝去されました。ご闘病中でしたが、必ず回復して復帰されると私たちは信じて待ち望んでおりました。當野先生も職場に復帰して教育・研究に再び携わりたいという強い思いで闘病されていました。當野先生の存在は私たちにとってあまりにも大きく、その喪失感は計り知れません。ここに研究室一同、心から哀悼の意を表し、當野先生のご功績に深い感謝と敬意を捧げたいと思います。當野先生が休職中のスウェーデン語専攻の授業においては、名誉教授の清水育男先生と特任講師の梅谷綾先生、非常勤講師の南澤佑樹先生に授業担当にご尽力いただき、スウェーデン語専攻の教育活動を滞りなく継続することができました。心より感謝申し上げます。

2023年3月末にはスウェーデン語専攻のMarie Therrydotter先生が任期を終えてスウェーデンに帰国されました。2020年10月より外国人特任教員として在職してこられたTherrydotter先生は、スウェーデン語教育において多大な貢献をして下さいました。その後任として、2023年4月1日よりJosef Wikström先生

が着任されました。Wikström 先生はその親しみやすいお人柄と豊富な経験に裏打ちされたレベルの高いスウェーデン語教育によって、学生に慕われ、そのスウェーデン語能力を大いに高めて下さっています。

そして、北欧語学が専門の南澤佑樹先生が 2024 年 4 月にスウェーデン語専攻の助教として着任されたことは私たち研究室にとって大変嬉しいことでした。南澤先生は、大阪外国語大学、大阪大学大学院でスウェーデン語研究の研鑽を積まれ、2018 年に大阪大学大学院にて博士号を取得されています。スウェーデン語のみならず、アイスランド語、ノルウェー語も操られる多才な南澤先生は、その卓越した語学力と豊富な知識をもって、研究と教育の両面で活躍されています。南澤先生が新たにスタッフに加わられたことを、私たち研究室一同、大変心強く思っています。

なお今号 *IDUN* 25 号刊行にあたって、人文学研究科より 2024 年度研究推進経費による研究成果刊行助成を受けたことを、感謝をもって申し添えます。

(文責：石黒 暢・大辺理恵)

2025 年 2 月 5 日

大阪大学 人文学研究科・外国学専攻
デンマーク語・スウェーデン語研究室

デンマーク語専攻 <http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/danish/top.html>
スウェーデン語専攻 <https://swedish.sfs.osaka-u.ac.jp>